

平成23年度まちづくりミーティング in 鷹山

期日：11月16日（水）午後7時～8時45分

場所：鷹山地区公民館 参加者数10人

Q. 荒砥高校について。町では入学生に補助金を支給しているが、存続させるにはそういった一時的な補助ではなく、荒高独自の特色を出していかないと子どもたちが集まってこないと思う。これについてどう思うか。

A. 以前から、「荒砥高校を考える会」でさまざま考えてきました。県立高校ということで、教育課程については県で決めるのでそこに町が介入することはなかなか難しく、町の要望を少し取り入れてもらう程度でありました。子どもの減少で定員80人まで届かず、町は6万円の入学金助成を始めました。また、「荒砥高校を考える会」を拡大し「荒砥高校をサポートする会」と改めました。平成25年度入学生からは総合科となる予定です。町では新たに、来年度からホームヘルパー2級の資格取得支援を始めるつもりです。荒砥高校は大学・専門学校等指定校があるのでそれを公開することや、町の商工会等と協力して進学先・就職先についても考えていかなければならないと思っています。

Q. 指定校とは、推薦枠を持っているということ？

A. はい。約100校の指定校になっています。

Q. 卒業後の出口が見えている良い例は長井工業高校。長井市と企業と高校のシステムがうまく成り立っている。それを白鷹町でできないか。

町長：荒砥高校は普通科ということで、町企業からは多めに採用してもらったりしています。町内企業としても荒砥高校がなくなると困るところもあります。荒砥高校生の離職率は低くなってきているところです。

Q. 研究開発校にしてはどうか？中身に特色が出せるのではないか？

A. 研究開発校にするのは可能です。しかし、定員の3分の2の人数を確保しなければいけないことには変わりありません。

Q. 白鷹町は特産物が少ない。町の特色を町民もわかっていない。「私たちの町は〇〇な町だ、〇〇をつくっている町だ」と知っている・言えるようにしてほしい。

A. 町内の方は、企業が作っているものを知らない、特産品についてもPR不足の状況であります。まずは町民の方に知ってもらわなければならないということで、昨年に産業センターを開設しました。現在商業・工業・農業・観光一緒になって産業フェアを開催しています。今年で2回目ですがその中で、企業がつくっているものの展示や紹介、物産の販売、紅花について講演等を行っています。今後6次産業化を目指すため検討を行っているところであります。生産額・量で一番高いのは牛乳・酪農であります。また、最近「岡の台ごんぼ」は加工品としても喜ばれていますから、ぜひ売りにしたい。白鷹町は何でも作れるが、何でも歴史が浅いのかもしれない。

Q. 関連して、他の市町村では町の特産品について子どもたちでも言える。例えば米沢市であれば「A. B. C」。白鷹町の子どもたちは言えるのか。そういった教育もお願いしたい。

教育長： 町では「白鷹人」の育成に取り組んでいます。白鷹人とは春サクラ、夏はベニバナ、秋はアユ、冬は隠れ蕎麦屋などを言えるような子どもであります。どこに行っても白鷹町は〇〇と言える子どもを育てたい。今まではそういった教育がかけていました。現在は、各学校にも依頼し町についての教育もお願いしているところです。今年度から小学3・4年生の副読本が新しくなりましたが、その中にも「白鷹人」育成のための教材も盛り込んであります。今いただいたご意見を具体化していく必要があると感じております。

Q. ナラ枯れについて。ここ最近でずいぶん進んだ。今は放置状態になっている。行政としてはどう考えているか。

町長： ナラ枯れは現在、手立てが無いのが現状です。林野庁へ行って話した際

も、今の状態で山形県は先駆者だと言われました。小国町では力を入れて実験を行いながら対策を練っていると聞いています。ヘリでの空中散布が一番効果的ですが、そこまですべきかどうか。このところ極端に増えているわけではないのでご理解いただきたい。

Q. 枯れた木の使い道は何かないのか。

A. 福島原発の事故によりエネルギーの見直しがされています。木質ペレットのチップを活用した取り組みが飯豊町や小国町で始まっています。白鷹町でもコストの面も含めて検討を行っていく考えであります。

Q. 萩野地区の基盤整備が決まっているが、他の地区は今のまま。企業参入等があると、農家はつぶされてしまうのではないかと心配している。産業基盤だけはしてもらえないか。

A. 農業の経営を考えたときに、持続可能であるか。基盤整備を行うには負担が伴うため、地域のコンセンサスがないと取り組むことは難しい状況です。ぜひ地域でまとまっていたいただいて方向性を検討していただきたいと思います。

Q. 小学校の統合については様子を見てということだが、鷹山小学校の統合を早急にしてほしい。来年度の入学者6人のうち、女の子1人で心配。萩野小・滝野小の統合の際は、複式学級の解消のためだったはず。

A. 小学校は、現在のまま当面統合はしないとしていますが、鷹山小については地域の方と協力して統合に向けて検討したいのが教育委員会の考えであります。複式学級は、子どもの教育にとっても教職員にとっても大変であります。できるだけ早く複式学級を解消したい。何年後になるかですが、地域の方のご理解を得ながら進めて参りたいと考えています。

Q. 小規模特別養護老人ホームの建設が遅れているようだが、本当に今年度中に完成するのか。

A.今回の工事は、町が補助金を出して聡明会が工事発注者になっています。先日現場を見てきました。工事の着工が遅れたことにより全体に遅れがでていますが、工期に向けて迅速に進めてもらうよう話をしました。今後町としても行程の部分においては監理をしていきます。

<要望>

①中学校の統合によってバス通学が増えると思う。その際、人や地域との触れ合い、体力の低下、感性が乏しくなる等考えられる。それに関わる対応をお願いしたい。

②マイスカイ中山について。利用者の方が白鷹のはずれに追いやられたと思っ
てしまわないようにしてほしい。地域や小中学生等と触れ合う機会をつくって
ほしい。

③中学校の統合について。東側と西側では意識が違う。問題意識が薄いのでは
ないか。問題として考えられることが多々ある。

- ・学校の適正規模について

人数が多いから適正というわけではなく、地区の現状にあった現在の規模が
適正ではないか。

- ・西側の負担増について

スクールバスの時間、送迎における保護者の負担、部活等。

- ・一人ひとりの活躍する場の減少

学校はそれぞれが活躍できる場所。例えば部活であれば、試合に出場できる
人数が少なくなる。

- ・学校は地域文化・地域活性化の核ではないか。

小中学生が活躍する姿を見せることによって地域が元気をもらえる。

その他にも、野球場・ソフトボール場等施設の活用、耐震化、武道館の建設、
西中学校のプールの活用等さまざま課題はある。

学校が2つあるからこそ、陰に陽に切磋琢磨できる。東、西と分かれていても
その中で切磋琢磨できる。総合的に考えて、現在のままがいいのではないか。
最終的な判断の際に考慮していただきたい。